

「JIRCAS国際シンポジウム2021」をオンライン開催 —アジアモンスーン地域の持続的な食料システム実現に向けて—

ポイント

- ・「JIRCAS 国際シンポジウム 2021」を令和3年11月17日（水）にオンライン開催
- ・アジアモンスーン地域における農業生産性の向上と持続性を両立するイノベーションを探り、その社会実装に向けた提案を行います。
- ・「みどりの食料システム戦略」に資する国際連携の在り方について議論します。

概要

国際農研は、JIRCAS 国際シンポジウム 2021『アジアモンスーン地域における持続的な食料システム実現に向けたイノベーション—「みどりの食料システム戦略」に資する国際連携に向けたプラットフォーム—』を、11月17日にオンライン開催します。

SDGs や環境に対して関心が高い世界の国々では、経済と環境をイノベーションで両立させる方向に動き始めています。我が国においても、食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現するため、農林水産省は、令和3年5月12日に「みどりの食料システム戦略」を策定しました。

本シンポジウムでは、世界の農業分野で活躍する国際機関、農業研究機関、開発機関の専門家に登壇していただき、アジアモンスーン地域における農業生産性の向上と持続性を両立するイノベーションを探り、「みどりの食料システム戦略」に資する連携プラットフォームのあり方について議論します。持続的な食料システムの実現に向けて、研究機関や大学の関係者、さらに環境に関心を持つ一般の方と共に考える場を提供します。

国際シンポジウムの開催について

1. 開催日時：令和3年11月17日（水）14:00～16:15
2. 開催方法：オンライン（YouTube JIRCAS channel よりライブ配信）
3. 申込方法：国際農研のホームページからお申し込み下さい。

URL: <https://www.jircas.go.jp/ja/symposium/2021/e20211117/entry>

（申込締切:令和3年11月16日（火）午前9時）

4. 使用言語：英語（日本語字幕あり）
5. 参加費：無料（どなたでも参加できます）

問い合わせ先

国際農研（茨城県つくば市）理事長 小山 修

JIRCAS 国際シンポジウム 2021 実行委員長：

情報広報室 プロジェクトリーダー 金森 紀仁

広報担当者：情報広報室長 大森 圭祐

Tel：029-838-6708 FAX：029-838-6337

プレス用 e-mail：koho-jircas@ml.affrc.go.jp

本資料は、農政クラブ、農林記者会、農業技術クラブ、筑波研究学園都市記者会に配付しています

※国際農研（こくさいのうけん）は、国立研究開発法人 国際農林水産業研究センターのコミュニケーションネームです。

新聞、TV等の報道でも当センターの名称としては「国際農研」のご使用をお願い申し上げます。

【プログラム】

1. 開会挨拶

小山 修（国際農研 理事長）

青山 豊久（農林水産省 農林水産技術会議事務局長）

2. 基調講演（2名）

Prof. Joachim von BRAUN（国連食料システムサミット 科学グループ座長）

世界と地域のフードシステムの変革を支える研究のプライオリティー

大澤 誠（農林水産省 前 農林水産審議官）

国連食料システムサミットは第一歩に過ぎない

3. 講演（5名）

Sridhar DHARMAPURI（FAO アジア太平洋地域事務所 食料安全保障・栄養問題
シニアオフィサー）

アジア太平洋地域におけるアグリフードシステム転換

Jon HELLIN（国際稲研究所 稲作システムを通じた持続的インパクトプラット
フォームリーダー）

アジアモンスーン地域の農民による変革的な気候適応・緩和の機会創出

植田 康成（国際協力機構 経済開発部 技術審議役）

アジアモンスーン地域での農業農村開発分野の重点的な取組

白戸 康人（農研機構 農業環境研究部門 気候変動緩和策研究領域長）

賢い土壌管理で一石三鳥を実現

～食料の安定生産、気候変動への適応、そして緩和

林 慶一（国際農研 環境プログラムディレクター）

アジアモンスーン地域の持続可能なフードシステムに向けた小規模農家への
取り組み

4. パネルディスカッション

進行役：飯山 みゆき（国際農研 情報プログラムディレクター）

5. 閉会挨拶

山本 由紀代（国際農研 理事）